

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成30年3月1日 (2018.3.1)

【公表番号】特表2016-516857(P2016-516857A)

【公表日】平成28年6月9日 (2016.6.9)

【年通号数】公開・登録公報2016-035

【出願番号】特願2016-505785(P2016-505785)

【国際特許分類】

C 0 8 B 37/18 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 47/36 (2006.01)

A 6 1 K 8/73 (2006.01)

A 6 1 K 31/343 (2006.01)

A 6 1 K 31/40 (2006.01)

A 6 1 K 31/7052 (2006.01)

A 6 1 K 31/55 (2006.01)

A 6 1 K 31/403 (2006.01)

A 6 1 K 31/63 (2006.01)

A 6 1 K 31/5415 (2006.01)

A 6 1 K 31/4468 (2006.01)

A 6 1 K 31/496 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/549 (2006.01)

A 6 1 K 31/7048 (2006.01)

A 6 1 K 31/4035 (2006.01)

A 6 1 K 31/07 (2006.01)

A 6 1 K 31/122 (2006.01)

A 6 1 Q 19/00 (2006.01)

A 2 3 L 33/155 (2016.01)

A 2 3 L 33/15 (2016.01)

【 F I 】

C 0 8 B 37/18

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 47/36

A 6 1 K 8/73

A 6 1 K 31/343

A 6 1 K 31/40

A 6 1 K 31/7052

A 6 1 K 31/55

A 6 1 K 31/403

A 6 1 K 31/63

A 6 1 K 31/5415

A 6 1 K 31/4468

A 6 1 K 31/496

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 31/549

A 6 1 K 31/7048

A 6 1 K 31/4035

A 6 1 K 31/07

A 6 1 K 31/122
 A 6 1 Q 19/00
 A 2 3 L 1/303
 A 2 3 L 1/302

【誤訳訂正書】

【提出日】平成30年1月18日(2018.1.18)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

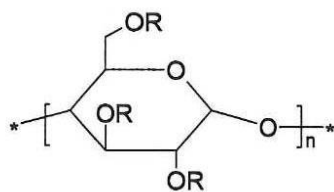
【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記式 (I) :

【化 1】



(I)

により表される少なくとも 1 つの繰り返し単位であって、式中、

各 R 基が、同じまたは異なってもよく、水素原子、1 ~ 9 個の炭素原子を有するアルキル基、2 ~ 12 個の炭素原子を有するアルケニル基、7 ~ 18 個の炭素原子を有するアリールアルキル基、または 8 ~ 18 個の炭素原子を有するアリールアルケニル基であり、前記 R 基の少なくとも 1 つが水素とは異なることを前提として、前記基のアルキルまたはアルケニル鎖が任意で水酸基により置換および / または酸素原子により中断され、前記基のアリール残基が任意でハロゲン原子により置換され、

n が 1 以上の整数である、

単位を含むグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 2】

前記アルキル基が 2 ~ 9 個の炭素原子を有する、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 3】

前記アルキル基が 2 ~ 8 個の炭素原子を有する、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 4】

前記アルキル基が 4 ~ 8 個の炭素原子を有する、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 5】

前記アルケニル基が 2 ~ 10 個の炭素原子を有する、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 6】

前記アルケニル基が 2 ~ 8 個の炭素原子を有する、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 7】

前記アルケニル基が 4 ~ 8 個の炭素原子を有する、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 8】

前記アリールアルキル基が 8 ~ 16 個の炭素原子を有する、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 9】

前記アリールアルキル基が 8 ~ 14 個の炭素原子を有する、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 10】

前記アリールアルキル基が 10 ~ 14 個の炭素原子を有する、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 11】

前記アリールアルケニル基が 8 ~ 16 個の炭素原子を有する、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 12】

前記アリールアルケニル基が 8 ~ 14 個の炭素原子を有する、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 13】

前記アリールアルケニル基が 10 ~ 14 個の炭素原子を有する、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 14】

前記 R 基のそれぞれが、同じでも異なってもよく、水素原子； 2 ~ 9 個の炭素原子を有するアルキル基、または 8 ~ 16 個の炭素原子を有するアリールアルキル基である、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 15】

前記 R 基のそれぞれが、同じでも異なってもよく、水素原子； 2 ~ 9 個の炭素原子を有するアルキル基、または 8 ~ 14 個の炭素原子を有するアリールアルキル基である、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 16】

前記 R 基のそれぞれが、同じでも異なってもよく、水素原子； 2 ~ 8 個の炭素原子を有するアルキル基、または 10 ~ 14 個の炭素原子を有するアリールアルキル基である、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 17】

前記グリコーゲン系ポリマーを調製するのに用いられるグリコーゲンが $2.7 \times 10^5 \sim 3.5 \times 10^6$ ダルトンの分子量を有する、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 18】

前記グリコーゲン系ポリマーを調製するのに用いられるグリコーゲンが $(2.5 \pm 0.1) \times 10^6$ ダルトンの分子量を有する、請求項 1 に記載のグリコーゲン系ポリマー。

【請求項 19】

前請求項のいずれか 1 項において定義されたようなグリコーゲン系ポリマーおよび親油性化合物の間の複合体。

【請求項 20】

前記親油性化合物が難水溶性薬剤、カロテノイドまたはカロテノイドに構造的に関連する親油性化合物からなる群から選択される、請求項 19 に記載の複合体。

【請求項 21】

前記難水溶性薬剤が (i) BCS クラス II 薬剤および (ii) BCS クラス IV 薬剤からなる群から選択される、請求項 20 に記載の複合体。

【請求項 22】

前記 BCS クラス II 薬剤がアミオダロン、アトルバスタチン、アジスロマイシン、カルバマゼピン、カルベジロール、セレコキシブ、クロルプロマジン、シサブリド、シプロフロキサシン、シクロスポリン、ダナゾール、ダブソン、ジクロフェナク、ジフルニサル、ジゴキシン、エリスロマイシン、フルルビプロフェン、グリビジド、グリブリド、グリ

セオフルビン、イブプロフェン、インジナビル、インドメタシン、イトラコナゾール、ケトコナゾール、ランソプラゾール、ロバスタチン、メベンダゾール、ナプロキセン、ネルフィナビル、オフロキサシン、オキサプロジン、フェナゾピリジン、フェニトイン、ピロキシカム、ラロキシフェン、レパグリニド、リトナビル、サキナビル、シロリムス、スピロノラクトン、タクロリムス、タリノロール、タモキシフェン、およびテルフェナジンからなる群から選択される、請求項 2 1 に記載の複合体。

【請求項 2 3】

前記 B C S クラス I V 薬剤がアムホテリシン B、クロルタリドン、クロロチアジド、コリスチン、シプロフロキサシン、ドセタキセル、フロセミド、ヒドロクロロチアジド、メベンダゾール、メトトレキサート、ネオマイシン、およびバクリタキセルからなる群から選択される、請求項 2 1 に記載の複合体。

【請求項 2 4】

前記親油性化合物が (i) カロテン、(i i) キサントフィル、(i i i) アポカロテノイド、(i v) ビタミン A レチノイド、(v) レチノイド薬剤、および (v i) 他の親油性ビタミン / 栄養因子からなる群から選択される、請求項 1 9 に記載の複合体。

【請求項 2 5】

前記 (i) カロテンが - カロテン、 - カロテン、 - カロテン、 - カロテン、 - カロテン、リコペン、フィトエン、フィトフルエン、および トルレン からなる群から選択される、請求項 2 4 に記載の複合体。

【請求項 2 6】

前記 (i i) キサントフィルが アンテラキサンチン、アスタキサンチン、カンタキサンチン、シトラナキサンチン、クリプトキサンチン、ジアジノキサンチン、ジアトキサンチン、ジノキサンチン、フラボキサンチン、フコキサンチン、ルテイン、ネオキサンチン、ロドキサンチン、ルビキサンチン、ピオラキサンチン および ゼアキサンチン からなる群から選択される、請求項 2 4 に記載の複合体。

【請求項 2 7】

(i) 前請求項 1 ~ 1 8 のいずれか 1 項において定義されたようなグリコーゲン系ポリマーと難水溶性薬剤を含む群から選択される親油性化合物との間の複合体、ならびに (i i) 少なくとも 1 つの医薬品的に許容な賦形剤を含む医薬品組成物。

【請求項 2 8】

(i) 前請求項 1 ~ 1 8 のいずれか 1 項において定義されたようなグリコーゲン系ポリマーとカロテノイドまたはカロテノイドに構造的に関連する親油性化合物を含む群から選択される親油性化合物との間の複合体、ならびに (i i) 少なくとも 1 つの栄養補助食品的に許容な賦形剤を含む栄養補助食品組成物。

【請求項 2 9】

(i) 前請求項 1 ~ 1 8 のいずれか 1 項において定義されたようなグリコーゲン系ポリマーとカロテノイドまたはカロテノイドに構造的に関連する親油性化合物を含む群から選択される親油性化合物との間の複合体、ならびに (i i) 少なくとも 1 つの化粧品的に許容な賦形剤を含む化粧品組成物。

【請求項 3 0】

親油性化合物の水溶性を向上させるための前請求項 1 ~ 1 8 のいずれか 1 項において定義されたようなグリコーゲン系ポリマーの使用。

【請求項 3 1】

親油性化合物を ヒト以外の対象へ投与するための前請求項 1 ~ 1 8 のいずれか 1 項において定義されたようなグリコーゲン系ポリマーおよび親油性化合物の間の複合体の使用。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 1 1 】

(i)カロテンのクラスに属する他の有用なカロテノイドは - カロテン、 - カロテン、 - カロテン、 - カロテン、リコペン、フィトエン、フィトフルエン、およびトルレンである。カロテノイドは (i i) アスタキサンチン、カンタキサンチン、シトラナキサンチン、クリプトキサンチン、ジアジノキサンチン、ジアトキサンチン、ジノキサンチン、フラボキサンチン、フコキサンチン、ルテイン、ネオキサンチン、ロドキサンチン、ルビキサンチン、ビオラキサンチン、およびゼアキサンチンのような、キサントフィル； (i i i) アブシジン酸、アポカロテナール、ビキシン、クロセチン、イオノン、ペリジニンのような、アポカロテノイド； (i v) レチナール、レチノイン酸、およびレチノール (ビタミン A) のような、ビタミン A レチノイド；ならびに (v) アシトレチン、アダパレン、アリトレチノイン、ベキサロテン、エトレチナート、フェンレチニド、イソトレチノイン、タザロテン、およびトレチノインのような、レチノイド薬剤をさらに含む。カロテノイドに構造的に関連する他の親油性化合物は、E、DおよびK ビタミンのような他の脂溶性ビタミンのようなビタミン / 栄養因子である。

【 誤訳訂正 3 】

【 訂正対象書類名 】 明細書

【 訂正対象項目名 】 0 0 6 7

【 訂正方法 】 変更

【 訂正の内容 】

【 0 0 6 7 】

有利には、(i)カロテンのクラスに属する有用なカロテノイドは - カロテン、 - カロテン、 - カロテン、 - カロテン、リコペン、フィトエン、フィトフルエン、およびトルレンである。

【 誤訳訂正 4 】

【 訂正対象書類名 】 明細書

【 訂正対象項目名 】 0 0 6 8

【 訂正方法 】 変更

【 訂正の内容 】

【 0 0 6 8 】

カロテノイドは (i i) アンテラキサンチン、アスタキサンチン、カンタキサンチン、シトラナキサンチン、クリプトキサンチン、ジアジノキサンチン、ジアトキサンチン、ジノキサンチン、フラボキサンチン、フコキサンチン、ルテイン、ネオキサンチン、ロドキサンチン、ルビキサンチン、ビオラキサンチン、およびゼアキサンチンのような、キサントフィル； (i i i) アブシジン酸、アポカロテナール、ビキシン、クロセチン、イオノン、ペリジニンのような、アポカロテノイド； (i v) レチナール、レチノイン酸、およびレチノール (ビタミン A) のような、ビタミン A レチノイド；ならびに (v) アシトレチン、アダパレン、アリトレチノイン、ベキサロテン、エトレチナート、フェンレチニド、イソトレチノイン、タザロテン、およびトレチノインのような、レチノイド薬剤をさらに含む。